

総合資源エネルギー調査会
長期エネルギー需給見通し小委員会（第6回会合）
議事概要

日時：平成27年4月10日（金）13:30～15:30

場所：経済産業省本館17階 1～3共用会議室

議題：エネルギーの効率的な利用等について

出席者：

坂根正弘委員長（小松製作所（株）相談役）

柏木孝夫委員（東京工業大学特命教授）

橘川武郎委員（東京理科大学イノベーション研究科教授）

河野康子委員（（一社）全国消費者団体連絡会事務局長）

小山 堅委員（（一財）日本エネルギー経済研究所常務理事）

高橋恭平委員（昭和電工（株）代表取締役会長）

高村ゆかり委員（名古屋大学大学院環境学研究科教授）

中上英俊委員（（株）住環境計画研究所代表取締役会長）

野村浩二委員（慶応義塾大学産業研究所准教授）

増田寛也委員（野村総合研究所顧問、東京大学公共政策大学院客員教授）

安井 至委員（（独）製品評価技術基盤機構名誉顧問）

山名 元委員（原子力損害賠償・廃炉等支援機構副理事長、京都大学名誉教授）

欠席者：

伊藤麻美委員（日本電鍍工業（株）代表取締役）

山地憲治委員（地球環境産業技術研究機構理事・研究所長）

経済産業省

上田資源エネルギー庁長官、高橋資源エネルギー庁次長、吉野大臣官房審議官、住田資源・燃料部長、多田電力・ガス部長、木村省エネルギー・新エネルギー一部長、松尾総合政策課長、片岡大臣官房参事官

内閣官房

吉川副長官補室参事官

内閣府

吉永政策統括官（経済社会システム担当）付企画官（社会基盤担当）

外務省

佐藤経済局審議官

文科省

原環境エネルギー課長

農水省

土橋再生可能エネルギーグループ長

国交省

長谷地球環境政策室長

環境省

瀧口低炭素社会推進室長

1. 分散型エネルギー、コージェネレーション、燃料供給の多様化や水素利用について、事務局より説明。

<委員からの主な御意見>

- 技術開発によりコージェネレーションなどの分散電源も有効に活用できるようになってきており、コージェネレーションについては具体的な導入目標を定めるべき。
- コージェネレーションの導入量を見通す上では、日本では欧州と比べて熱需要が少ないこと、地域によって都市ガス普及の状況が異なることなども踏まえてミクロで議論する必要がある。
- コージェネレーションの拡大を見込む場合には、燃料を競争的な価格で調達することがどうしても必要となってくるなど、分散型エネルギーの推進にとっても化石燃料の問題というのは欠かせない要素である。
- 水素は何から作るかによって排出原単位が異なるため、それを明らかにするべき。

2. 化石燃料の安定供給の在り方について、事務局より説明。

<委員からの主な御意見>

- 電源だけでなく一次エネルギーのミックスも考える必要があり、一次エネルギーとしては石油やLPガスも重要。
- 化石燃料の安定供給を考える上では、個別の国のリスクだけではなく世界の燃料マーケットの大きな変化を見通す必要がある。
- CO₂削減に世界的に協調している中で、エネルギー源の炭素排出に対する制約が供給上、大きな不確定性となるかどうか議論が必要。
- エネルギー基本計画で定義されたベースロード電源等について、一般の方に適切な理解が行き届いていないように見受けられるので、わかりやすい整理をして示すよう、小委員長から事務局に指示があった。

(以上)